

2020年度

「基盤整備」事業報告書

2021年3月

一般社団法人 日本船舶品質管理協会

1. 事業目的

船用工業製品の品質の改善及び品質管理の向上を図り、国の検査制度の円滑な運用に寄与するとともに、会員企業の発展に必要な事業を推進する。

2. 事業の内容（計画）

2. 1 品質管理調査研究事業

検査に係る国際的動向等を踏まえ、事業場の自主検査体制の合理化、品質の改善等に係る各種事業を実施し、関係先に対して意見交換、意見具申を行う。

2. 2 指導事業

船舶検査制度の適正、かつ円滑な運用に資するため、必要な指導や情報提供を行う。

2. 3 救命艇装置の安全性向上のための人材養成事業

講習会を開催し、救命艇装置整備技術者の養成、確保を図るとともに、研修会を開催し、整備技術者の技能の維持、向上を図る。

2. 4 相談事業

会員等からの各種相談に応じる。

3. 事業の実施結果及び成果

基盤整備事業は、当会の自己資金及び日本財団の助成金により実施する事業であつて、2020年度は、次のとおり4事業を実施した。

3. 1 品質管理調査研究事業

(1) 認定事業場の自主検査と検査制度に関する調査研究

「製造事業場認定申請書に添付する書類の記載要領」(2020年版)を作成し、会員、関係機関等に配布した。

(2) 船用品の品質改善・品質管理の向上に関する調査研究

延期されていた2019年度事業の「品質管理の高度化に関する調査研究」について、新型コロナウイルスの感染拡大を配慮し、インターネットを活用した「Web 報告会」を2021年3月9日(火)に開催した。報告会には、約160名が参加し、調査研究関係者(6事業所、1研究所)から調査研究成果の報告が行われた。

(3) 新規認定物件に関する調査研究

新たに型式承認された物件を調査、整理し、「国土交通省型式承認物件一覧表」(2020年版)を作成し、会員、関係機関等に配付した。

3. 2 指導事業

(1) 製造認定事業場継続調査指導

船用機器等の製造認定事業場 33 事業場の継続指導を実施した。そのうち、7 事業場については、製造に必要な施設や関係書類の継続調査指導に加え、当該事業場が認定を受けてから 5 年目に該当したため、更新申請のための指導、助言並びに関係書類の確認を行った。また、更新に際しての現地審査の立会指導を 3 事業場について実施した。

(2) 船用品整備事業場巡回調査指導

膨脹式救命いかだ整備認定事業場の 15 事業場（昨年度実施できなかった 1 事業場を含む）及び GMDSS 救命設備整備証明事業場の 13 事業場の巡回指導を実施した。

この中で、整備に必要な施設、関係書類等について厳正な維持、管理に努めるよう指導するとともに、GMDSS 救命設備の整備に必要なシールドルームの電波漏洩状況を測定調査し、電波遮蔽状況が規定値内にあることを確認した。

(3) 新規に認定を希望する製造事業場への調査指導

「船舶安全法の規定に基づく認定事業場規則」の一部改正が平成 29 年 8 月 1 日付で公布、施行され、当会が国土交通省に対して要望した認定物件の自主検査の拡大が図られた。当該規則改正により、認定製造事業場の活用が進められたことから、製造認定の取得を希望する事業場が増加したため、昨年度から引き続き、今年度も調査、指導を実施している。2020 年度に 2 社が製造認定事業場として新たに認定された。

さらに、製造認定事業場の認定を希望する 2 社について、認定に向けた調査、指導を実施している。

(4) 船用品整備情報の集中管理

新システムによる運用が順調に行われ、全国の整備認定事業場で整備された膨脹式救命いかだ及び GMDSS 救命設備の整備データを新システムで集中管理し、整備事業者からの船舶に搭載されている膨脹式救命いかだ及び GMDSS 救命設備の過去の整備記録の問合せに対応している。さらに、製造年月別の経年劣化の状況等必要な情報を把握して整備事業者を提供している。

2020 年（1 月～12 月）は、膨脹式救命いかだ 8,666 台、GMDSS 救命設備 10,520 台の整備情報を入力した。2020 年度の整備事業場からの問合せは、1028 件あり、情報提供を行った。

(5) 型式承認関係申請事務に関する指導

関係事業者からの型式承認物件の承認あるいは変更手続等に関する問合せに対応し、適宜指導を行った。

(6) GMDSS 救命設備積付け技術講習会・研修会の開催

GMDSS 救命設備積付け資格者を養成するため、新規資格取得者の講習会を開催し、3 2 名が合格して新たに GMDSS 救命設備積付け資格者として認定した。

また、GMDSS 救命設備積付け資格者の技能の維持、向上を図るための研修会

を開催した。

[講習会]

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 10. 29(木)	東京海洋大学 越中島キャンパス (東京都江東区) (受講者 38名)	学科：①船舶安全法及び関係法令 ②積付け(積み降ろし) 要領と留意事項 実技：積付け、外観点検時の注意事項 技量認定試験：学科、実技

[研修会]

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 10. 30(金)	東京海洋大学 越中島キャンパス 越中島会館 (東京都江東区) (受講者 25名)	学科：①GMDSS 及び海上通信関連の最新動 向 ②機器整備上の留意事項 実技：積付け、外観点検時の注意事項
2020. 12. 11(金)	新大阪丸ビル別館 (大阪市) (受講者 26名)	学科：①GMDSS 及び海上通信関連の最新動 向 ②機器整備上の留意事項 実技：積付け、外観点検時の注意事項



実技実習 (講習会)



技量認定試験 (学科)

(7) 磁気コンパスアジャスタ講習会・研修会の開催

(一社) 日本コンパスアジャスタ協会と共催で、磁気コンパス整備技術者を養成するための講習会 (B 講習会) を開催した。なお、研修会については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、開催を中止した。

[B 講習会]

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 10. 17(土) ～ 2020. 10. 21(水)	東京海洋大学 越中島キャンパス (東京都江東区) (受講者 9 名)	[B 講習会] 1. 自差修正理論及び自差修正 2. 傾船差理論及び傾斜差修正 3. 実技実習及び認定試験

(8) 膨脹式救命胴衣等整備技術講習会・研修会の開催

膨脹式救命胴衣等の点検整備を行う者の整備技術の向上を図るため、会員の膨脹式救命胴衣等及び部品の製造事業者 9 社と共同で講習会及び研修会を計画し準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、開催を中止した。

(9) 船舶用消防設備整備技術講習会・研修会の開催

船舶用消防設備の点検整備を行う技術者の養成を行うことを目的として、会員である船舶用消防設備 (固定式炭酸ガス消火装置、固定式泡消火装置、固定式粉末消火装置、局所消火装置、火災探知装置、消火器及び個人装具) のメーカー 8 社と共同して「船舶用消防設備整備技術講習会・研修会」を開催した。

この講習会・研修会の結果、4 名を新たに船舶用消防設備整備技術者 (消火器・個人装具に係るもの) として認定、26 名の資格を船舶用消防設備整備技術者 (消火器・個人装具に係るもの) として更新した。

また、メーカー (7 社) 主催による講習会・研修会 (固定式消火装置、火災探知警報装置等に係る実技講習) を 11 月～12 月に開催した。

[船舶用消防設備整備技術 A 講習会 (学科講習及び消火器・個人装具コース実技講習)]

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 11. 4 (水) ～ 2020. 11. 5 (木)	東京海洋大学 越中島キャンパス 越中島会館 (東京都江東区) (受講者 5 名)	講義 1. 基礎知識、関係国際規則 2. 各装置の概要、構造等 実技 1. 各装置の点検整備要領 認定試験 1. 学科試験 2. 実技試験

[船舶用消防設備整備技術 A 研修会 (学科講習及び消火器・個人装具コース実技講習)]

実施日	場 所	実 施 内 容
2020.11. 4 (水) ～ 2020.11. 5 (木)	東京海洋大学 越中島キャンパス 越中島会館 (東京都江東区) (受講者26名)	講義 1. 基礎知識、関係国際規則 2. 各装置の概要、構造等 実技 1. 各装置の点検整備要領 認定試験 1. 学科試験 2. 実技試験



実技講習 (消火器)



実技講習 (個人装具)

[各メーカーによる B 講習会・研修会 (固定式消火装置、火災探知警報装置等に係る実技講習)]

実施内容： 講義 (各装置の概要、構造等)、実技 (各装置の点検整備要領)
認定試験 (学科試験、実技試験)

実施日	場 所	実施メーカー	実施内容 (装置の種類)
2020.11.18(水)	(株)コアツ 滋賀研修センター (滋賀県湖南市)	(株)コアツ	固定式炭酸ガス消火装置 (受講者13名)
2020.11.19(木)	エア・ウォーター防災 (株) 神戸工場 (兵庫県神戸市)	エア・ウォーター防災 (株)	固定式炭酸ガス消火装置 (受講者20名)
2020.11.25(水)	ヤマトプロテック(株) 中央研究所 (茨城県稲敷郡)	ヤマトプロテック(株)	固定式局所消火装置 (受講者16名)

2020. 11. 26 (火)	(株)カシワテック 筑波工場 (茨城県坂東市)	(株)カシワテック	固定式泡消火装置、 固定式局所消火装置 (受講者 20 名)
2020. 12. 3 (木)	能美防災(株) 本社別館 (東京都千代田区)	能美防災(株)	火災探知警報装置 (受講者 16 名)
2020. 12. 4 (金)	ニッタン(株) 横浜研修 センター (神奈川県横浜市)	コンシリアム・ニッタ ンマリーン(株)	火災探知警報装置 (受講者 15 名)
2020. 12. 8 (火)	日本ドライケミカル (株) 本社 (東京都港区)	日本ドライケミカル(株)	固定式粉末消火装置、 固定式炭酸ガス消火装置 (受講者 19 名)

(10) ISO 関係業務等に関する指導

ISO 規格関連において、船舶に係る国際標準化等に関するアンケートを実施し、規格改正等の実施テーマの要望を調査した。また、ISO 関連の規格改正（特に救命及び消防関係）の審議情報を関係者等に提供した。

(11) 品管時報及び SS ニュースの刊行

定期的な刊行物として、国際海事機関(IMO)の船用品等に関する技術要件改正作業の動向、国内関係法令の改正、通達等の内容、その他会員の参考となる各種情報を内容とする品管時報及び SS ニュースを発行した。

(12) ホームページによる情報提供

ホームページを適宜更新し、会員をはじめ多くの海事関係者に対して船用機器や船用品の製造・整備に関する各種情報を提供した。

3. 3 救命艇装置の安全性向上のための人材養成事業

SOLAS 条約の改正により有資格者による救命艇装置（救命艇及び進水装置）の年次点検等が義務付けられたことに対応するため、救命艇装置整備技術者を養成する「救命艇装置整備技術講習会」及び資格更新の「救命艇装置整備技術研修会」を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外からの受講が困難な状況にあるため、新規に資格を取得する講習会の開催を中止した。

また、研修会については、資格証の有効期限が満了となるため、海外受講者においては、集合研修の形式を取らずに、インターネットを活用し、個別に技能評価ができる方式で研修を実施した。なお、国内の研修会受講者については、移動可能であることから、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて開催した。

[救命艇装置整備技術研修会] (海外向けリモート研修)

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 8. 24(月) ～ 2020. 9. 4(金)	各所属事業場 (受講者 54名)	学科講習 (配布資料による自己研修) 1. 救命艇関係の条約等の更新の最新情報 2. 救命艇装置の整備点検における問題点について 3. 進水装置の整備点検における問題点について 4. 救命艇装置整備事業所の認定について 実技講習 (配布資料による自己研修)
2021. 1. 28(木) ～ 2021. 2. 5(金)	各所属事業場 (受講者 45名)	1. 離脱装置のトラブルシューティングと部品交換要領 2. ウインチの不具合事例と各種部品交換要領 3. 救命艇・進水装置の保守点検時の不具合事例と対処要領 技能評価 筆記試験及び整備実績により、整備技量の低下がないことを評価する。

[救命艇装置整備技術研修会] (国内向け)

実施日	場 所	実 施 内 容
2020. 10. 3(土) ～ 2020. 10. 4(日)	東京海洋大学 越中島キャンパス (東京都江東区) (受講者 14名)	学科講習 1. 救命艇関係の条約等の更新の最新情報 2. 救命艇装置の整備点検における問題点について 3. 進水装置の整備点検における問題点について 4. 救命艇装置整備事業所の認定について 実技講習 1. 離脱装置のトラブルシューティングと部品交換要領 2. ウインチの不具合事例と各種部品交換要領 3. 救命艇・進水装置の保守点検時の不具合事例と対処要領 技能評価 各メーカーが実施する実技試験により、整備技量の低下がないことを評価する。



学科講義



技能評価試験

3. 4 相談事業

検査制度及び品質管理全般について、会員あるいは一般からの相談、質問等を受け、適宜対応した。これらの各相談、質問等については、必要に応じ関係官庁、関係機関等と連絡を取りながら対応した。

刊行物

2020年度の基盤整備事業に係る刊行物は、次のとおりである。

- (1) 品管時報 (6回)
- (2) SS ニュース (2回)
- (3) 国土交通省型式承認物件一覧表